

## ウミガラス保護増殖事業の今後の計画について（案）

### （考え方）

- ・ 赤岩対崖の繁殖地では現在、30～40羽のウミガラスが繁殖している。スペースとしては現在使っていない場所を含めると、50～100つがいほどの繁殖が可能だと思われる。過去の検討会において、この繁殖地をウミガラスでいっぱいすることを保護増殖事業の「短期（中期）的な目標」とすることを議論している。
- ・ 近年、ウミガラスの飛来数や巣立ち数が徐々に増加傾向である一方で、現在でも奥の壁際に面していないウミガラスの繁殖が失敗しているなどの問題もある。これは、繁殖する個体が若いため失敗している可能性も考えられるが、壁際に面していないためハシブトガラスなどの捕食者の影響を受けている可能性もある
- ・ そのため今後の取り組みの一つとして、繁殖に失敗している要因を把握すると共に、今後のウミガラスの繁殖箇所の拡大と併せて、捕食者から防御する効果もあるデコイの再配置や周辺環境整備を行っていききたい。

### （今後の実施内容とスケジュール案）

#### 平成 29 年度

##### 4 月（カメラ設置時）

- ・ カメラを広角に設置して、繁殖している箇所全域を確認できるようにする。  
→4台のカメラのうち、2台は例年どおり設置し、残り2台は広角に設置する
- ・ できる限り、繁殖地内の様子（地形、面積など）を記録する。

##### 4 ～ 12 月

- ・ どの箇所繁殖しているのか、各箇所での捕食者の影響などを把握する
- ・ どこにデコイなどを設置すべきか、他にもどのような対策があるのかを検討する  
→実施案の作成  
→必要に応じたデコイなどの資材の購入

##### 1 月頃（H29 年度ウミガラス検討会）

- ・ 実施案をもとに、検討会で議論を行う

#### 平成 30 年度

##### 4 月（カメラ設置時）

- ・ カメラの設置
- ・ モニタリングの実施

##### 8～9 月

- ・ クライマーに依頼し、デコイの再配置などの環境整備を実施する。  
→4月のカメラ設置時は波の状況が悪く実施が困難と想定されるため、繁殖終了後の8～9月にクライマーに再度来てもらい、環境整備を実施する。

### （その他、取り組んでいく課題）

上記以外にも、「鳥獣保護区全体でのハシブトガラスなどの捕食者対策」や昨年度の検討会で議論した「誘引対策の強化」などについても検討を進めていきたい。また、費用対効果の高い繁殖状況のモニタリング手法の検討についても実施していきたい。